



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

キュラソー島旅行記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 紘司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/87504

キュラソー島旅行記

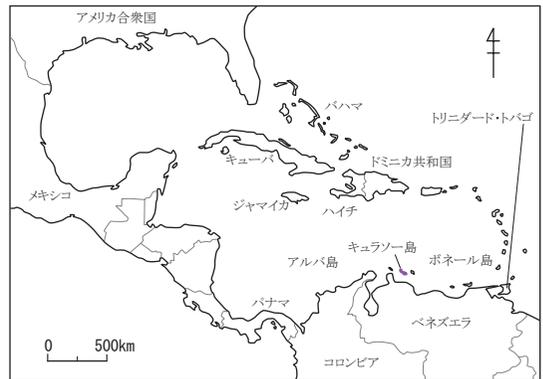
佐藤 紘司*

2004年3月と2005年2月、両年とも2週間ほど筆者はキュラソー島を訪れた。キュラソー島の正式名称はNetherlands Antilles Curaçaoといい、オランダ領アンティルの一つである。また、アルバ島とボネール島、キュラソー島それぞれの頭文字をとって、オランダ領ABC諸島と称されることもある。独立国ではないため、外務省の各国・地域情勢データには記載されていない。また、在日オランダ大使館に情報を求めたが、キュラソー島に関する情報は所持していないという返答であった。本稿では、キュラソー島の概要を中心に、筆者の僅かながらの所見を踏まえて報告したい。

1. 位置と自然環境

まず、「キュラソー」という島を知っていたであろうか？

位置については第1図に示したが、地理を専門としている方は、ベネズエラ・マラカイボ湖の石油精製を行っている島としてご存知であろう。カクテルや菓子を作る際によく用いられる、オレンジ・キュラソーやブルー・キュラソーといったリキュールがこの島の特産品としても有名である(写真1)。また、“日本のシンドラー”こと、杉原千畝がユダヤ人にビザを発給したことは有名であるが、その目的地がこのキュラソー島であった。



第1図 中央アメリカ

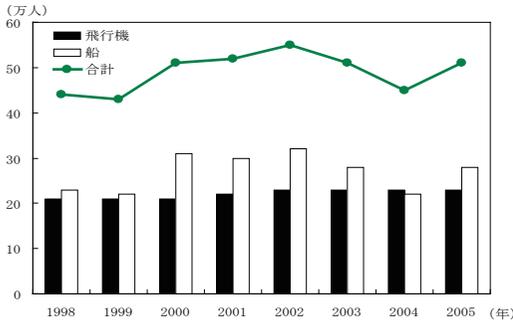


写真1 キュラソー・リキュール

日本からキュラソー島へは、飛行機でアメリカ合衆国やオランダを経由して行くことが一般的である。また、首都ウィレムスタッドには水深の深い湾があり、豪華クルーズ船で訪れる観光客も多い(第2図、写真2)。気候については以下で述べるが、欧米人の避寒地として、カリブ海諸地域の中でも人気のある島の一つである(第3図)。

キュラソー島の全人口は約13万人、総面積

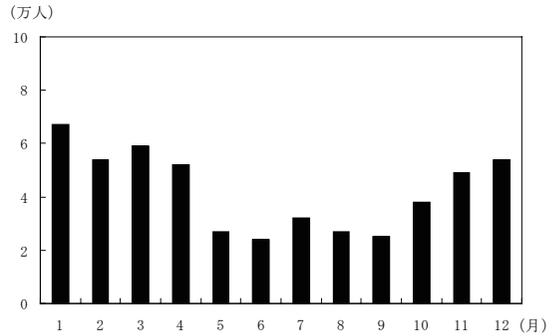
*東京学芸大学大学院生(院40期)



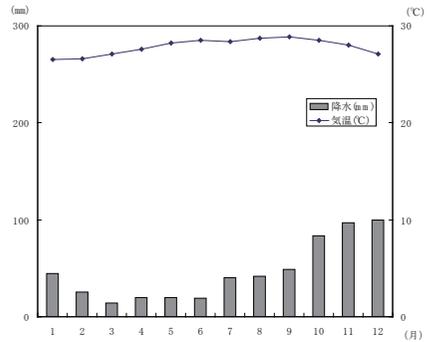
第2図 キュラソー島の観光客数の推移
(キュラソー島観光局ホームページのデータより作成)



写真2 クルーズ船



第3図 キュラソー島の月別観光客数 (2005年)
(キュラソー島観光局ホームページのデータより作成)



第4図 キュラソー島の雨温図
(オランダ領アンティルの天気に関するホームページのデータ)

は 444 k m² で日本の種子島とほぼ同じ大きさの小さな島である。最も標高の高い山はクリストフィールバーグ山の 375m であるが、島のほとんどは 100m 以下の隆起サンゴ礁からなる。気候は年平均気温 27.8℃、年間降水量 553.4mm の半乾燥性気候である (第 4 図)。恒常風である北東貿易風により、気温のわりには過ごしやすい。また、ハリケーンベルトから外れているため、その被害を受けない一方、雨の恩恵も受けられない。降雨は時折スコールがある程度である。そのため、飲料水などの生活に必要な水は海水から作られている。植生は、その気候とやせた土壌により、乾燥に強い多肉多汁植物や灌木が生い茂る。写真 3 は、ある道路脇の写真であるが、島内は野生のサボテンやアロエが好き放題に伸びている。写真 4 は、キュラソー島周辺地域を代表する灌木、ディビディビの木とココヤシの木の写真である。前者は軟木、後者



写真3 サボテンとアロエ



写真4 ディビディビの木 (左) とココヤシ (右)

は硬木であるが、恒等風のため風下に曲がりながら成長する。ディビディビの木はその形が生かされ、海岸ではパラソル代わりに、家の庭先では日よけのガレージ代わりに利用され、この島独特の景観をかもし出している。

II. 歴史

キュラソー島の歴史は、約6千年前に南アメリカ大陸北部に定住していた先住民、アラワク族が移り住んできたことで始まる。

1499年に、スペイン人アロンソ・デ・オヘーダとイタリア人アメリゴ・ベスプッチによってキュラソー島は“発見”された。1527年からスペイン人による植民が始まると、アラワク族は奴隷となった。しかし、少雨のためにプランテーションは成功されず、スペインはキュラソー島を放棄した。その後、1634年にオランダ艦隊が上陸し、オランダの植民が始まった。ウィレムスタッドの港には砦が築かれ、オランダ西インド会社の貿易の中心地となった。奴隷貿易も盛んに行われ、1863年に奴隷制度が廃止されるまで続けられた。また、キュラソー島の立地と良好な湾に目をつけたイギリスが争奪を目論み、1800年から1803年、1807年から1815年と二度統治するが、1815年にキュラソー島はオランダに返還されている。

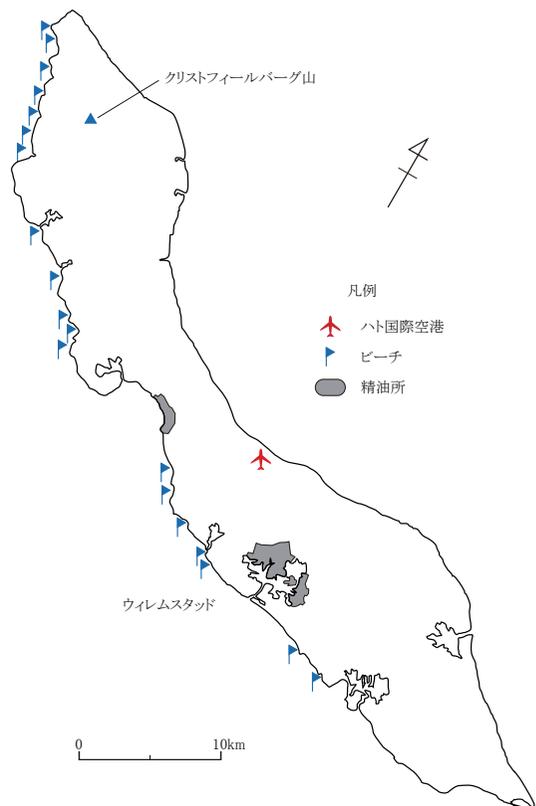
1914年にベネズエラのマラカイボ湖で石油が発見されると、キュラソー島はダイナミックに変化する。ウィレムスタッドの良好な湾が生かされ、ロイヤル・ダッチ・シェル社が精油所を設立した。周辺地域はもちろん、アジアからの労働者も受け入れるようになった。しかし、オイルショックの影響や石油産業に伴う環境問題への反響などから地元の労働組合の反発にあり、1980年代にロイヤル・ダッチ・シェル社は撤退した。キュラソー島の精油所は現在、ベネズエラの国営石油会社PDVSA社が運営してい

る(写真5)。

石油産業の衰退により、1980年代には観光業に力が注がれるようになった。北東貿易風の影響により島の北側は波が荒いが、南側は美しいビーチが連続している(第5図)。とくに良好なビーチにはリゾートホテルが建設されており、プライベートビーチとして整備されている(写真6)。また、1997年に首都のウィレムスタッドの町並みがユネスコの世界文化遺産に登録さ



写真5 石油精製所



第5図 キュラソー島



写真6 ビーチの風景



写真7 ウィレムスタッドの町並み

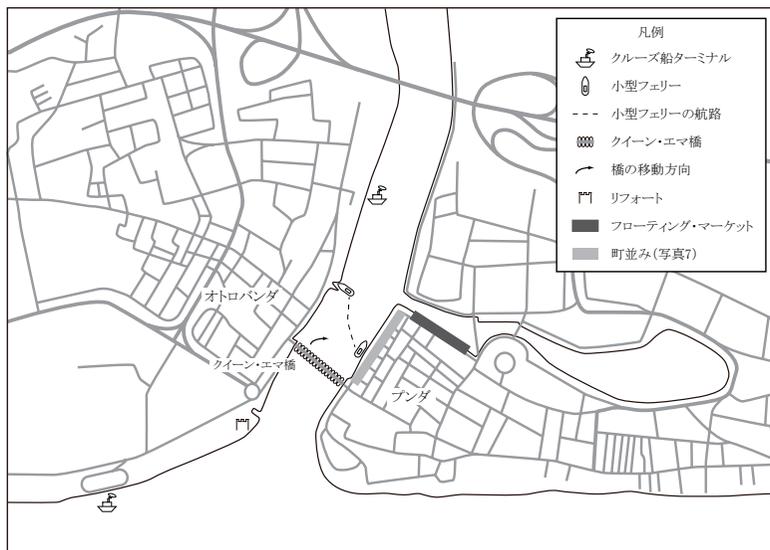
れた(写真7)。17世紀のオランダ領時代に建造されたパステルカラーの町並みには、有名ブランドが免税店として店舗を構え、内からも外からも観光客を魅了している。

Ⅲ. 観光とカーニバル

ここで、ウィレムスタッドの町の見どころを簡単に紹介しよう。ウィレムスタッドはプンダとオトロバンダという2つの地区からなる(第6図)。この2つの地区は、クイーン・エマ橋という歩行者用の橋で結ばれているのだが、単なる橋ではない。16隻のボートを橋ゲタとしており、1日に十数回クルーズ船やタンカーが出入りするたびに橋が移動するのである(写真8)。橋が移動している間は小型のフェリーが無料で運航している。

映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズでロケ地となったのは、セント・ビンセント島と言われるが、キュラソー島内にも幾つか要塞が残されている。1828年に建てられたリフォートと呼ばれる要塞は現在、その面影を生かしたショッピングモールとして観光客を誘っている(写真9, 写真10)。

プンダの北側の水路に沿っては、フローティング・マーケットが軒を連ねている(写真11, 12)。ベネズエラから新鮮で色鮮やかなフルーツや野菜、近海で獲れた魚を積んだボートがやって来て、ここにマーケットを開いている。



第6図 ウィレムスタッドの概略図



写真8 移動するクィーン・エマ橋



写真11 フローティング・マーケット①



写真9 リフォート①



写真12 フローティング・マーケット②



写真10 リフォート②



写真13 カーニバル①

とくに、マンゴーやスイカなどは甘みが強く、何度食べても外れがなかった。

また、ウィレムスタッドの町並みと並ぶ観光の目玉は、毎年2月または3月に開催されるカーニバルである(写真13, 写真14)。ブラジル・リオデジャネイロのカーニバルは世界的に有名であるが、キュラソー島やトリニダード・トバゴなどカリブ海諸地域でも開催されている。通りには屋台が設置され、ビール片手にバーベキューで焼かれた肉をほお張る光景はパレード



写真14 カーニバル②

第1表 パピアメント語と日英西葡語のあいさつ

パピアメント語	日本語	英語	スペイン語	ポルトガル語
Bonbini !	ようこそ!	Welcome !	¡Bienvenido!	Bem vindo!
Bon dia	おはよう	Good morning	Buenos días	Bom dia
Kon ta bai?	元気ですか?	How are you?	¿Como esta usted?	Tudo bem ?
Si / No	はい/いいえ	Yes / No	Si / No	Sim / Não
Danki	ありがとう	Thank you	Gracias	Obrigado
Ayo	さようなら	Good bye	Adiós	Tchau

(パピアメント語はGoilo, E. R. (1974) より作成)

を一層飾り立てている。

観光業の発展により、飲食店や土産物屋では公用語のオランダ語の他に英語やスペイン語を話せる店員が必ずいる。店の看板や料理のメニュー、観光地のツアーガイドなどは2言語以上使われていることが多い。しかし、地元住民同士は上記の言語ではなく、パピアメント語で会話をする。パピアメント語とは、スペイン語やオランダ語、精油所の建設に伴いこの島にやって来た周辺地域の英語やポルトガル語、また、奴隷貿易で連れてこられたアフリカ現地語など、さまざまな言語がミックスして生まれたクレオール語である(第1表)。オランダ領ABC諸島だけの言葉であり、地元の人にパピアメント語で話しかけると普段以上の笑顔で返事を返してくれる。人種・民族の混血だけでなく、そこで生まれる言葉や文化について触れることは、カリブ海のどの島を調べる上でも必要不可欠であろう。

IV. 人気が高まる野球

最後に、筆者がこの島に興味を持ったきっかけとその展望を述べて、今回の報告を終えることにする。筆者がキュラソー島を知ったのは、カラフルな町並みでも石油精製でもなく、野球であった。2001年1月、あるメジャーリーグ

雑誌がこの島出身のアンドリュー・ジョーンズ(2006年まで9年連続ゴールドグラブ賞、2005年には本塁打と打点の2冠)の特集を読み、当時高校2年生の筆者はこの島の存在を知ったのである。また、オリンピックやワールド・ベースボール・クラシックに参加するオランダ代表は、キュラソー島の出身選手が中心であった。スペイン領、オランダ領という歴史であり、島の位置も南アメリカに近いのにサッカーではなく野球?……筆者がキュラソー島に抱いた最初の“なぜ”である。これは、その後の大学時代に筆者が2度もこの島を訪れるきっかけとなった。

野球の話に戻ると、キュラソー島の野球については、詳細なデータや記録は不明なものの、マラカイボ湖の石油発見が大きく関与している。中南米の野球、例えば、マラカイボ湖の石油産業にともないベネズエラに、パナマ運河の建設にともないパナマに野球は伝播している。中南米・カリブ海地域における野球文化圏は、19世紀後半から20世紀前半のアメリカ合衆国との関係が大きな鍵となる(第7図)。

キュラソー島について、野球は最も人気の高いスポーツであるが、キューバやドミニカ共和国と比較すれば野球後進国である。アンドリュー・ジョーンズの活躍により、キュラソー島はアメリカの球団から脚光をあびるように



写真 15 少年野球チーム・マリーンズ



写真 16 試合後に談笑する大人たち



写真 17 現地の子どもたちと筆者

なった。リトルリーグのキュラソー代表は、毎年世界選手権でも好成績を残しており、下部組織の土台も着実につくられている。メジャーリーグがキュラソー島を“発見”したのは、つい最近のことなのである。たかが野球と思われる方もいるだろうが、近年のスポーツビジネスの成長は著しく、この島にとって野球が将来、観光業、精油業に続く“第3の経済の柱”となる可能性も否定はできない。キュラソー島における野球は世代を越えた大衆娯楽であり、一獲千金を狙うチャンスの一つなのである（写真15、写真16）。

今回の報告は2007年1月に企画された、自然地理ゼミと地誌ゼミの合同ゼミにおいてスライド紹介したものである。掲載写真はすべて筆者が撮影した。

参考文献

坂田篤稔 (1988) : 知られざる小アンチル諸島. 地理,

33 (7), pp. 42-50.

Goilo, E. R. (1974) : Hablemos Papiamentu. De Wit & Van Dorp Stores, 87p.

Klein, A. M. (1994) : Trans-nationalism, Labour Migration and Latin American Baseball. “The Global Sports Arena”. Frank Cass & Co, pp. 183-205.

参考ホームページ

①キュラソー島公式ホームページ

<http://www.curacao.com/> (最終閲覧日 : 2007年8月24日)

②キュラソー島観光局ホームページ

<http://www.ctb.an/> (最終閲覧日 : 2007年年8月24日)

③キュラソー島トラベルガイドホームページ

<http://www.curacao-travelguide.com/> (最終閲覧日 : 2007年8月24日)

④オランダ領アンティルの天気に関するホームページ

<http://www.weather.an/> (最終閲覧日 : 2007年8月24日)